

## 【中学部 数学 実践の概要】

○中学部2年 数学 (単一障がい学級)

○本時の題目：「重さを予測してみよう」

○本時の目標：

- ・重さが分からない時には、はかりを使えばよいことがわかり、1 kg までの残りの重さの量を重い・軽いなど判断をして1 kg  $\pm$  50 gの重さにすることができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「なぜ重さの学習をするのかを理解し、重さの感覚がわかるようになってほしい」というものであった。授業では、校外学習で行ったみかん狩りの体験を生かせるように、みかんを用いて、1 kg はどれぐらいの個数になるのかを、ペアで話し合いながら答えを導き出す活動であった。ペア活動を通して、対象生徒は「重いものから選んで、軽いもので調整すればいいよ」と発言するなど、協力しながら、課題を解決しようとする授業展開となっていた。

## 【良かった点・工夫されていた点】

- 重さのわからないペットボトルを軽い順に並べるといった活動を最初に行うことで、子どもたちがゲーム感覚で、積極的に活動に取り組み、「これよりもこっちの方が重い」、「さっきのよりは軽いからこれが前にくるよ」と一生懸命に考えている様子が見られた。
- 100 gがこれぐらいの重さということがわかるように、はかりを用いたり、ペットボトルを用いたりすることで、生徒たちはそれを参考にみかんの重さを予測し、1 kgになるようにしようとする姿が見られた。
- 教師が授業中、「なんでそうしたのかな?」、「どうしてそう思ったのかな?」と子どもたちの発言や行動の理由を問うことが多くあった。そのことで、生徒たちは自分の考えを言語化し、正確に伝えようとする姿が見られた。
- 導入時から、ゲーム形式で考える活動を行うといった工夫や、展開時もどのグループがピタリ賞になるかなといった言葉がけを行うことで、生徒たちが会話しながら集中して活動に取り組んでいた。
- 「1回だけはかりを使ってよい」や「教師に相談してよい」といったヒントカードを用意することで、ペアで考える過程で、ヒントカードを有効活用しながら、答えにたどり着こうとする姿が見られた。
- 「生活の中で重さが書かれているものって何かな?」と生徒に問うと、「歯磨き粉」、「お菓子」といった回答があった。そこで「重さがわかると役立つことは何かな?」と再度問うことで、生徒たちが自分たちの言葉で重さを知ることの意義を表現することができていた。
- 教師の説明を最小限にとどめ、できるだけ生徒の発言を大事に扱い、教師と生徒の対話、生徒同士の対話を通して、思考を深めることができるようにしていた。

## 【課題】

- みかん狩りの体験を生かせるように、みかんの重さを測定する活動を行ったが、その活動から1ヶ月近く経過しており、活動の詳細を忘れていた生徒がいた。

## 【助言】

- みかん狩りの活動を思い出せるように、その時の映像や写真を掲示するといった工夫が必要であった。

## 【総括】

「生徒たちが日常生活で重さを意識してほしい」という教師の願いがあり、そのためにはどうすればよいかということを手問自答しながら、題材計画を構想し、行っていた。また、生徒たちが楽しく学ぶ工夫をしながらも、重さの概念や、重さを理解することで生活の中で生かすことができるようになるにはという視点で授業を実践していた。ゲームのように熱中しながら課題に取り組む姿が見られる主体的な学び、ペア活動の中で対話をしながら思考を言語化する対話的な学び、どうすれば答えにたどり着けるのかと熟考する姿が見られる深い学びのある授業であった。